

<緑内障検査のご案内>

当院では、新たに検査機器を導入し、緑内障の検査を開始いたしました。緑内障は、視神経に障害が生じることで視野が徐々に狭くなる病気です。緑内障は目の視神経に影響を及ぼし、主に視野が狭くなっていく病気です。以下のような特徴や症状があります。

<緑内障の特徴や症状>

視 野 欠 損：緑内障が進行すると、徐々に見える範囲が狭くなりますが、初期段階では自覚しづらいことがあります。

眼 圧 上 昇：眼圧が上がることで視神経が圧迫されます。

視 力 低 下：視野欠損だけでなく、視力も影響を受けることがあります。早期には気づかないことが多いです。

急 性 症 状：一部のタイプでは、眼の激しい痛み、吐き気、充血といった急性の症状が出ることもあります。

視力の喪失：進行を放置すると、最悪の場合、失明に至ることがあります。

早期発見と治療が大切で、特に 40 歳以上の方や家族歴がある場合は定期的な検査をおすすめします。初期には自覚症状がほとんどないため、早期発見・早期治療が非常に重要です。

<検査内容>

導入した OCT（光干渉断層計）をはじめ、以下の検査を組み合わせで行います。

眼 圧 検 査：眼圧が高いと視神経に負担がかかる可能性があるため、目の硬さを測る検査をします。

視 野 検 査：見える範囲を測ることで、視野に欠けがないか確認します。

眼 底 検 査：目の奥の網膜や視神経の状態を観察します。

OCT 検 査（光干渉断層計）：網膜の断層画像を取得して、視神経や網膜の精密な解析を行います。

これらの検査は、緑内障の早期発見と進行状況を理解するために役立つ検査です。痛みもなく短時間で行うことが可能です。初めての方でも安心して受けていただけます。

<検査をご希望の方へ>

緑内障検査をご希望の方は、お気軽にお申し出ください。皆様の大切な視力を守るために、しっかりとサポートいたします。

視覚障害原因の約80%が眼底疾患といわれており、現状の定期健康診断では、残念ながら眼底疾患のかなりのものが、視力が下がらない早期～中期には見つけることができません。

眼底検査は、網膜、視神経、脈絡膜などの目の奥の状態を評価することができます。眼科検診でしばしば用いられる無散瞳カメラによる眼底検査以外に眼科臨床の現場で行われる代表的な眼底検査として、光干渉断層撮影（OCT：optical coherence tomography）があります。OCTは網膜や視神経の詳細な断層画像を得る非侵襲的な検査で、加齢黄斑変性や糖尿病網膜症、緑内障等の進行評価に役立ちます。

最近では、造影剤を使用せずに血管撮影ができる、光干渉断層血管撮影（OCTA：OCT angiography）も登場しており、被験者の負担が少なく眼底の評価を行えるようになっています。

人は両眼でものを見るため、片眼の視野異常には気づきにくいものです。また40歳以上の5%が罹患する緑内障は初期には自覚症状に乏しいため、未だ診断されず未治療の緑内障患者さまが多数存在しています。労働年齢層にも多くの未治療患者さまが存在していることが予想され、精密検査を受けるようおすすめします。

代表的な緑内障には原発開放隅角緑内障と原発閉塞隅角緑内障があります。原発開放隅角緑内障は眼圧が高い狭義のものと、眼圧が正常域の正常眼圧緑内障に分類され、日本では正常眼圧緑内障が大多数を占めています。原発開放隅角緑内障は進行が緩徐で自覚症状に乏しいため、未治療の患者さまが大変多いのです。

現行の検査項目では末期の緑内障まで視力は温存され、正常眼圧緑内障は眼圧検査で検出できません。精度の高い眼底検査の判定レベルが必要となります。眼圧が良好でも睡眠時無呼吸症候群、喫煙、激しい運動などによって低酸素状態になり、視神経の血流低下によって視野欠損が進行する例もあります。

（日本眼科医会の冊子から引用）

<患者さま向け Q&A 資料>

緑内障検査について よくあるご質問

Q. 緑内障とはどんな病気ですか？

A. 視神経に負担がかかり、視野が少しずつ狭くなっていく病気です。進行すると日常生活に支障が出ることもありますが、初期には気づきにくいため定期的な検査が大切です。

Q. 検査は痛みがありますか？

A. ご安心ください。検査はすべて非接触で、痛みはありません。短時間で終わりますので、初めての方でも安心して受けていただけます。

Q. どんな機器を使うのですか？

A. 当院では、OCT（光干渉断層計）を導入しています。網膜や視神経の状態を詳しく確認できる機器で、より正確な診断が可能です。

Q. 検査は誰でも受けられますか？

A. はい。特に以下の方にはおすすめしています

- 40歳以上の方
- ご家族に緑内障の方がいらっしゃる方
- 目の疲れや違和感がある方

Q. 検査を受けたい場合はどうすればいいですか？

A. お気軽にお声かけください。医師が必要に応じてご案内いたします。